

第14章 近世のヨーロッパ

1 主権国家群の形成と宗教改革

教 ▶ p.230 ~ 235

イタリア戦争と新しい国際秩序

- 主権国家の登場…国家を超越する権力であった教皇や皇帝が衰退したため
- 〔①〕戦争(1494～1559)…イタリアを舞台にしたハプスブルク家とフランスヴァロワ家との戦い
 - フランス軍のイタリア侵入(1494)からカトー＝カンブレジ和約(1559)まで
 - 1519年、ハプスブルク家出身のスペイン王〔②〕が皇帝に(皇帝としては〔③〕) →フランス王〔④〕は皇帝選挙に敗北
 - イタリア諸都市、ローマ教皇、イギリスなどは一国が強大となることをはばむ同盟外交を展開
- 主権国家の併存を前提とする国際政治→主権国家体制のはじまり

ルターの宗教改革

- 宗教改革…教皇と皇帝の権威をゆるがし、主権国家群の形成をさらにおしすすめた
 - ドイツの神学者〔①〕が95か条の論題(1517)で教皇〔②〕の贖宥状(免罪符)販売を批判
 - ルターの考え(主著『キリスト者の自由』)は活版印刷や版画で広大な反響(教皇からは破門)
 - 神聖ローマ皇帝〔③〕はヴォルムスの帝国議会(1521)でルターに説の撤回を要求 →拒否したルターをザクセン選帝侯フリードリヒが保護(そこで〔④〕)のドイツ語訳を完成)
- 〔⑤〕(1524～25)…ルターの教えに触発された農民一揆 →〔⑥〕らの指導により領主制の廃止などを要求(ルターは諸侯に一揆鎮圧を説く)

国家による信教の管理

- イタリア戦争やオスマン帝国の圧迫に対処するため皇帝〔①〕は一時期ルター派を黙認
 - 危機が遠ざかると再び禁止(1529)→ルター派諸侯や都市は皇帝に抗議(〔②〕)の呼称の起源)
 - ルター派諸侯や都市はシュマルカルデン同盟を結成(1530)して皇帝と対抗
- 〔③〕(1555)で妥協が成立
 - ルター派の公認(宗派の選択の自由は諸侯のみで個人の信仰の自由やカルヴァン派は認めず)
 - ルター派の領邦では、国家が信教を監督する領邦教会制が成立
 - ルター派はデンマーク、スウェーデン、ノルウェーなどに広まる

カルヴァンの改革

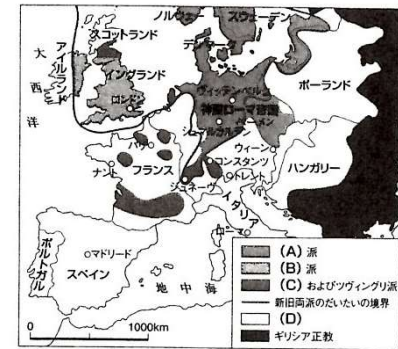
- スイスでの改革
 - チューリヒでは〔①〕が贖宥状の販売を批判(→カトリック諸州軍と戦って戦死)
 - 『キリスト教綱要』を著したフランス人の〔②〕がジュネーヴに招かれて一種の神権政治 →司教制にかえて、牧師と信徒代表からなる長老制を導入
- カルヴァンの教え
 - 〔③〕説…人が救われるか否かはあらかじめ神の意志により定められている
 - 資本主義的な営利活動を肯定→商工業の盛んな西ヨーロッパに広まる
 - カルヴァン派はフランスで〔④〕、イングランドで〔⑤〕、スコットランドで〔⑥〕、オランダで〔⑦〕とよばれた

自立するイギリス

- 国家主導の宗教改革…発端は〔①〕(位1509～47)の離婚問題
- 国教会の成立
 - ヘンリ8世は〔②〕(1534)を定め、国王を最高の長とする〔③〕が成立
 - 離婚に反対していた教皇と絶縁、修道院を解散して土地と財産を没収して国民に払い下げ →地主の〔④〕はその土地で勢力拡大 →おりからの第1次〔⑤〕で多くの農民は土地を失う
 - 〔⑥〕(位1553～58)がスペインのフェリペ2世と結婚→〔⑦〕を復活
 - 〔⑧〕(位1558～1603)は〔⑨〕(1559)で国教会を再建
- エリザベス1世の政治
 - 主要産業である羊毛生産や毛織物業などを保護、貧民救済のために救済法を制定
 - ホーキンズやドレークに私掠特許状(スペインの船や商館を攻撃させる)、オランダ独立を支援 →スペインの〔⑩〕の来襲(1588)を受ける

カトリックの改革運動

- 対抗宗教改革…カトリック協会の態勢立て直し
 - 〔①〕の公会議(1545～63)…教皇の至上権と教義を再確認、宗教裁判の強化など
 - イグナティウス＝ロヨラらが設立した〔②〕による勢力回復活動 →アメリカ大陸やアジアへも布教(日本に来航した〔③〕、明で布教した〔④〕)
- 新旧両派の対立
 - 16～17世紀の西ヨーロッパで宗教戦争をひきおこす
 - カトリックは南ドイツ、ポーランド、オーストリア、フランス、ネーデルラントの南半分を回復



↑宗教改革後のヨーロッパの宗教分布

フェリペ2世の戦争

- ハプスブルク家の分裂…カルロス1世(カール5世)の退位でスペインとオーストリアに分裂
- スペイン王〔①〕(在位1556～98)
 - 母方のポルトガル王位を継承(1580)→アジア貿易をも手中に(「太陽の沈まぬ国」とよばれる)
 - 〔②〕(1571)…オスマン帝国の海軍をやぶり威信高める
- スペインの没落
 - 対抗宗教改革の先頭→属領のネーデルラントで新教徒の反乱をまねく
 - 〔③〕の敗北(1588)…ドレークらが活躍したイギリスにやぶれる
 - アメリカ大陸からの富→戦争と宮廷の浪費で消滅(国内産業が育たず)